

――まずは昨年の需要を振り返って。

「環境問題への対応と  
中堅中小企業の経営基盤  
強化支援、商慣習改善、  
海外の情勢・技術動向の  
把握の4点を重点活動テ  
ーマに位置付け、役職員  
が会員企業を訪ねて困り  
事の把握に努めている。  
いる。さらに外国人材の  
電線産業が社会に貢献す  
べく今後も取り組みを進  
めたい。また今期は委員  
会活動による社会貢献へ  
の寄与を表彰する委員会

導入や支払いサイトの短縮などに向けた活動にも注力している」

「今年の市場環境についてはどうみていま  
すか。

「電力関連分野は経年設備更新や再生可能エネ  
ルギー関連需要に加え、地域間連系線の増強や生  
成AIの普及をにらんだ送電インフラの整備など

での需要に期待ができる。必要はあるが、少なくとも2030年ごろまではDXや車の運転自動化などに伴う機器の電子化などに関するニーズが増える。また自動車関連分野はバッテリーEV市場の成長や世界的な需要増などが期待できる。またデータセンター内ではメタル通信ケーブルの需要などに関しても、現在のペースでデータセンターの増設が進めば

**データセンターが需要喚起**



見込んでいる。建設・電  
販分野は都市再開発やデ  
ータセンター増設など建  
設需要があるが、工事現  
場の人手不足による施工  
能力がネックとなり横ば  
いになりそうだ」

――生成AI普及拡大  
によるデータセンター  
関連需要の増加が追い  
風になっています。

「データセンター投資  
について過剰になつて  
いないか状況を注視する  
から拡大していくだろ

「低炭素化の潮流の中  
で核融合発電技術の開発  
が世界的に加速してい  
る。日本国内でも政府や  
大学などが活動を活発化  
させている状況。電線大  
手メーカーなどが手掛け  
る高温超電導線材は核融

合発電技術の開発で果  
たす役割は。

――注目が集まる核融

# 核融合技術の開発に寄与

う。高温超電導線材の開発・供給は核融合技術の進展に大きく貢献することは論を待たない。さうに官民連携・国際協調を通じ安全確保や標準化など実用化に向けた環境整備にも寄与していきた  
い」

——昨年は銅価が未曾有の高水準となりました。が電線業界としての受け止めは。

「電線の販売価格は銅価にリンクする方式での値決めが一般的になってしまっている。高騰した銅価分が転嫁されると電線は工事資材として値上がりする形になり、それが建設プロジェクトの足かせになる可能性は否めない。プロジェクトの見直しなどに繋がれば需要に影響するだろう。また調達費用がかさみ運転資金が増加することが会員企業の負担になることも考えられる。その対応としては適正価格をタイムリーに顧客に認めてもらうことが重要になってくるので商慣習改善の取り組

みを進めていきたい」

——人材確保が会員企業の中で大きな課題となっています。

「外国人材の活用に向けて取り組んでいる。昨年4月にはそのための準備室を設けており、27年度に施行予定の育成就労制度について電線ケーブル製造業を対象に含めていただけるよう政府に申請している。加えて制度施行後に会員企業が円滑に外国人材を受け入れられるよう管理支援団体との連携や技能評価試験の設計・教育教材の準備など様々な支援策を計画している」

「また工業会としての広報活動を通じ電線の役割や会員企業の魅力を広く伝えて認知度を高めたい。電線産業が社会に不可欠な業界であることをご理解いただき、そこで働く意義を多くの人に感じてもらいたい。また現在電線業界で働いている皆さんには自らの仕事の価値をより強く実感してほしい」

(古瀬 唯)

なる47万トンを確保できる。これらを合算すると、国内で過去に記録した最高値に肩を並べる数値といえる。また当会調べによる業界全体としての売上高や経常利益、純利益は過去最高を記録している状況にある。日本の電線産業は成長を続けていて進めてきた取り組みは。

# 2026年非鉄金属業界団体トップインダビューア

森平 英也 会長(古河電工社長)